

## 薬は相談して

薬を選ぶ際の情報とそれによる判断基準はどうしているのでしょうか？  
普通の場合、TVCや雑誌の広告記事、それに、店で薬の並んでいる棚を眺めたりして薬の箱に効能をみて判断するケースが多いと思います。

しかし、一般に販売されている薬の効能には制限があり、大まかな目的内の効能は内容成分に関わらず同じように表示することになっています。たとえば、風邪薬はメーカーや成分が違っても効能は同じです。成分による効き方の違いなどはかなり専門的に考えないと症状に合った薬を見つけだすことが大変難しいことです。

たとえば私たち薬剤師が「・・・に効く薬はどれですか？」と聞かれた場合は内容成分が、相談された症状に合っているか判断し薬を選び出します。

このことから、使い慣れて安心できる薬は店の棚から買うことも良いですが、症状はいつも同じとは限りません薬剤師によく相談して薬は選ぶべきです。相談された薬剤師は、相談内容により一般の薬では間に合わない症状の場合は専門医を紹介したり、養生法をアドバイスすることも、また専門医からの処方箋を調剤し薬について生きた指導をすることも薬剤師の大切な役目と努力しています。